

＜図画工作科における活用のポイント＞

- ①資質・能力の育成と関連付けて活用すること。
- ②感性や想像力を働かせる場面を大切に活用すること。
- ③発達の段階や経験に応じて適切に活用すること。

※実際にもものに触れたり見たりすることが、図画工作科の資質・能力の育成において重要！

事例1 第3学年 造形遊び 題材名「小さな自分」のお気に入り

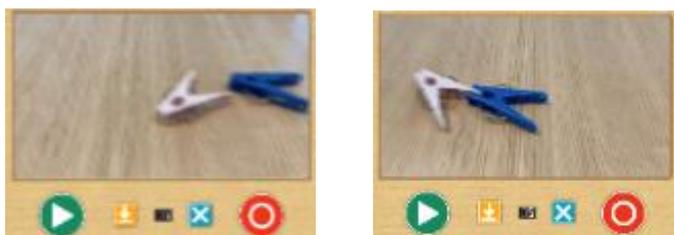
- ①「小さな自分」になって、校内や校舎の周りから楽しい場所を見つける。
- ②場所の感じからイメージを広げ、周りの材料（落ち葉や小石など）を使って素敵な場所になるように飾る。
- ③その場所に合ったポーズを考えて写真を撮り、ラミネートした「小さな自分」をお気に入りの場所に置き、場所の魅力が伝わるように写真を撮る。
- ④写真を紹介し合ったり、実際に小さな友だちを探しに行ったりして鑑賞する。

使う機能：カメラ

効果的ポイント

カメラ機能を使うことで、小さな自分の視点から場所を見ることができ、発想を広げるとともに、見方・感じ方を広げることができる。

事例2 第5学年 工作に表す 題材名：「形が動く 絵が動く」(コマ撮リアニメーション)



使う機能：

- ・無料アプリ「KOMAKOMA」等
- ・ロイロノート等

- ①コマ撮リアニメーションの作品例を見て、自分だったらどんなアニメーションをつくりたいか発想を広げる。
- ②必要に応じて考えたストーリーを簡単な絵や文字にし、イメージを明確にしたり広げたりする。
- ③無料アプリ「KOMAKOMA」を使用し、身近な材料でアニメーションを作成する。
- ④何枚か撮影したら再生し、対象の動かし方や写真の枚数などを試しながら製作する。
- ⑤出来上がったアニメーション上映会を行い、ロイロノート等を活用して感想を交流し合う。

効果的ポイント

- ・身近な材料、身の回りのもの、紙粘土等、多様な対象での表現が可能になり、様々なアイデアを実現できる。
- ・全員の作品に対する感想を共有できる。

事例3 第5学年 鑑賞 題材名：「水から発見 こききれい！」(★)

- ①水と容器、インク、光を使って、いろいろ試しながらきれいな水の様子を見つけていく。
- ②見つけた水の様子や姿を写真に撮り、どんどん作りかえて、様々なよさや美しさを見つけていく。
- ③写真を提示しながら、見つけた水のよさや美しさを紹介し合う。

使う機能：カメラ



効果的ポイント

一瞬の形をとどめることで直視では見逃してしまう形のおもしろさに気づいたり、カメラに記録することで全員と共有したりすることができる。